

# kamaboko 探検隊

## ヤナギヤ最古のカタログ 新潟で発見！昭和8年製！か？ 古泉蒲鉾株式会社

新潟県新潟市江南区曙町1丁目9番10号

今回の「蒲鉾探検隊」は新潟の古泉蒲鉾さんに古いカタログがあるとの情報から、新潟担当営業マンの横浜支店、西本レポートに突撃取材をお願いしました。



【蒲鉾探検隊レポーター】  
横浜支店営業課 西本拓人

古いカタログのことは前担当の大平さん（現在本社営業部）からも聞いていたのですが、今回はレポーターとして直接自分でお話を伺って参りましたので報告いたします。

カタログの保持者は新潟市の古泉蒲鉾さんです。「細工蒲鉾」「リテーナー蒲鉾」「あづま揚げ」が人気商品で、当社からサイレントカッターSC230・SC40-H、擂潰機RS130・RS27、蒲鉾切断機CTC718など多くの機械を納入させて頂いています。

古泉蒲鉾さんは昭和11年に先代が26歳の時に創業され、75年の歴史ある新潟の老舗です。現在の古泉千代吉社長は2代目で平成9年9月に社長に就任されており、社長は中学生の頃から家業の手伝いを始め、高校生の時には夜間高校に通いながら昼間は家業に専念され、大変苦勞されていたそうです。

### 【古泉社長のお話；カタログ収集について】

私は学生時代、サークルでがらばん刷りと投写版を使用し新聞を作って学生皆に配っていました。しかし、人が苦勞して作った新聞を持って帰ることもしない人がいて、それは大変失礼な事であり、その時から保管するという事の大事さが身に染みて分かり、そう感じてからは保管する事としています。



古泉蒲鉾株式会社  
代表取締役社長 古泉千代吉氏

又、現在では過去を辿るのにも必要になってきており、保管している事を知っている方々はその資料を求めて訪れて来られる事もあります。

当社では直接必要ないこともありますが、それも人と人の繋がりになりますし、今後何かの役に立つかもしれないという思いがあり保管して来ました。

今回、ヤナギヤさんにもこの様な形を取って頂き、今となっては保管しておいて良かったと感じています。

### 【昔は・・・】

7月・8月は休業となり、その間に機械整備を行っていました。9月に間に合うように、ほとんど自社にて整備を行い、部品については町工場で製作して手に負えない故障がある場合はヤナギヤさんに依頼をしていました。他の時期は忙しい為、ヤナギヤさんは夏場に良く来られていた印象があります。

当時は極端に大きなメーカーもなく擂潰機を持っている台数で大小を把握していました。新潟では堀川さんが擂潰機を5台並べていたのが一番大きかったと思います。

### 【今では・・・】

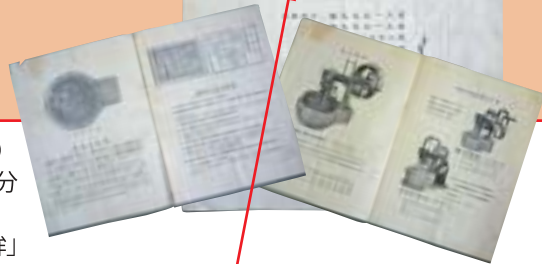
蒲鉾も細工蒲鉾が主であった時代から今では細工蒲鉾自体減ってきて、生産出来るメーカーも地元では当社だけになってしまいました。当社としては細工蒲鉾の技術を大事に残して行きたいという気持ちがあり、時代は変われど継承して行く事が大事だと思っています。

（※社長はカタログだけでなくヤナギヤからの手紙、封筒、蒲鉾組合の書類など、いかなる書類も保管されています。）



（昭和28、34、35年カタログ）

ヤナギヤ横浜営業所時代に当時の山根所長が先代にお送りした手紙や封筒。暑中見舞いや値上げのお願い状なども所持されています。



このカタログには「新設成ル柳屋擂潰機工場」と記されていることから、本格的に擂潰機の生産を開始したことをこのカタログで伝えたかったと思われます。創業者である柳屋元助は昭和7年6月に柳屋鉄工所を開業しており、掲載されている内容（下記参照）からも、このカタログは昭和7年後期から昭和8年のものではないかと推測しました。

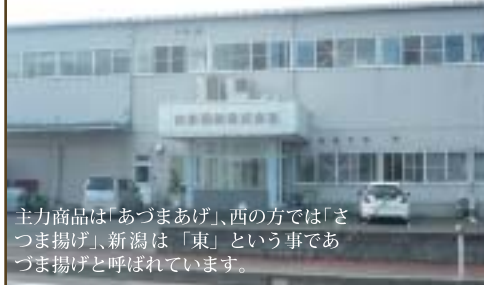


「昭和7年6月以降のみ御使用者芳名」・・・カタログには、鉄工所を開業してからの「昭和7年6月以降のみ御使用者芳名」と記されており、このカタログが柳屋鉄工所としての最初のカテゴリかもしれない。



ヤナギヤが現在所持する最古のカタログは昭和14年のものです。

【古泉蒲鉾会社概要】昭和11年10月23日創業（創業75年）先代社長、古泉千代三氏が26歳で新潟市本町通10番丁にて創業。平成6年9月に曙町へ引越し、現在に至る。昭和61年8月に古泉蒲鉾店から古泉蒲鉾株式会社に社名を変更。従業員10名。



主力商品は「あづま揚げ」、西の方では「さつま揚げ」、新潟は「東」という事であづま揚げと呼ばれています。